

小田原・箱根の観光ビジョンを！

去る3月の2・3日には、箱根湯本にて「第1回 火山🌋観光サミット in 箱根」が盛況裏に開催されました。全国各地から同じような課題を抱える観光地の皆さんが集まり、国の内外から一流の研究者を招いて、情報を共有し学び合う有意義な場であったと感じました。

箱根大涌谷が警戒レベル1に下がり、ちょっと一安心ではありますが、一部エリアへの立ち入り禁止やロープウェイの一部運休が続く中、お客様が完全には戻ってきてくださるようになるにはもう少し時間がかかるようです。

今回のこの大涌谷の事象を通じて、改めて小田原と箱根の経済は一体であること、その中で観光の占める割合があまりに大きいことを体感的に納得しました。同時に箱根の観光にも問題点があること、また、小田原も箱根の観光に大きく依存していることなどいろいろと学ぶべきがありました。

当所では昨年5月から、対策本部として、行政（神奈川県、箱根町、小田原市）と観光協会（箱根町、小田原市）にも加わっていただいて全所を挙げて、「箱根活性化会議」を立ち上げ、1. 正しい情報の収集 2. 誘客アクション 3. 会員企業の経営支援（資金と雇用）を柱として活動してきました。

そして、レベルの一旦の落ち着きを観た今、活動の柱を次のステップに移しました。皆の記憶が失せないうちに今回の経験を教訓にして、今までの観光の問題点や足りないモノ・コトや直すべきモノ・コトを洗い出し、あるべき姿としての「(仮称) 小田原・箱根の観光ビジョン」としてまとめ、提言してまいります。2月、3月で専門家や研究者を招いて観光に関する勉強会を開催し、4月で議論しとりまとめ、5月には発表したいと思っています。その過程で広く会員の皆さまのご意見も伺う機会を設けますので、お声をお寄せいただけますようお願いいたします。

今回、大涌谷の活動は一旦は収まるでしょう。しかし、相手は自然現象です。必ず繰り返すでしょう。その時に同じ轍を踏むことがないように、起こったことから学び活かしていくことが重要だと思います。私たちのなりわいと暮らしは、これまでもこれからも自然の恩恵と脅威の中にあるということを肝に銘じつつ。

追申：

当所としては初めての試みですが、「合同入社式」（2016年4月1日14時～）を開催します。地域の経済界を挙げてこの地域で働く新しい力を歓迎すると同時に、新入社員の皆さんには同期入社という顔の見える地域でのお仲間を増やしていただきたいとの思いです。会社の規模等には関係なく、希望する全ての会員企業様が対象です。ぜひ、御社の若手を奮って合同入社式へ送り出していただけますようお願い申し上げます。

会頭 鈴木悌介